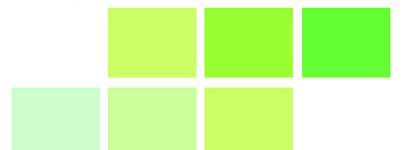


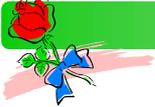
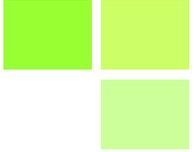
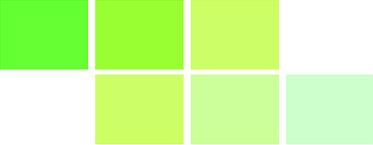
抗がん剤治療を受けられる  
\_\_\_\_\_さまへ



大阪警察病院

平成18年4月 作成  
外来点滴治療・化学療法室





## はじめに

抗がん剤による治療には、再発の危険を予防し、がんの発育を抑える確かな治療効果が認められています。「抗がん剤」の話が出ると、まず先に副作用を考えてしまう患者さんも多いでしょう。確かに抗がん剤は、他の薬と比べて副作用の影響が大きい薬といえます。しかし最近では、副作用を和らげるための治療法が発達してきましたので、ずいぶん楽に治療が受けられるようになりました。



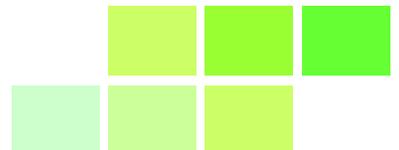
抗がん剤による治療を受けられる患者さんにとって何より大切なことは、副作用と上手につきあっていくことです。この冊子では、副作用による日常の負担を出来るだけ軽くして、副作用と上手に付き合いながら治療を続けていくための工夫や、注意点を紹介します。

抗がん剤治療を受ける前に、次のことをよく理解しておきましょう。

- どのような抗がん剤を使うのか
- どんな副作用がいつごろでてどのくらい続くのか
- 治療期間はどのくらいかかるのか
- 外来で治療できるか入院か



私たちは皆さんが安心して治療を受けられるよう、よく話し合いながら力を合わせて治療を行うことを心がけています。お気づきの点、不安な点がありましたら、遠慮なく医師・看護師・薬剤師にご相談下さい。



## 抗がん剤治療とは

### ● 抗がん剤治療の目的

最大の課題はがん細胞を完全に消滅させることですが、がん細胞の種類やがんの進行の程度などにより、がんの化学療法の目的は下記に示すように様々です。

がんが治ること

がんが広がらないようにすること

がんの増殖を遅らせること

がんが原因と考えられる症状を和らげること



### ● 抗がん剤治療の方法

抗がん剤を1種類だけ使う単剤療法や、タイプの違う抗がん剤をいくつか組み合わせて使う多剤併用療法があります。また抗がん剤の種類として、以下のものがあります。

- ・ 注射剤…静脈内に抗がん剤を投与方法です。ゆっくりと点滴で投与する場合と、短時間（2～3分）で投与する場合があります。また、がん細胞に栄養を送っている動脈に直接、抗がん剤を投与する動脈内投与もあります。
- ・ 経口剤…錠剤やカプセル剤を服薬します。



## あなたの治療法について

あなたの抗がん剤治療は\_\_\_\_\_療法です。

\_\_\_\_\_コースを目標として治療を行ないます。

治療中は、効果や副作用を見ながら継続・中止を判断します。

下記に治療の説明をします。



薬剤名	点滴か経口	1コースの投与スケジュール
	( 点滴・経口 )	
	( 点滴・経口 )	
	( 点滴・経口 )	



## 副作用について

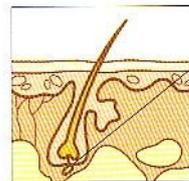
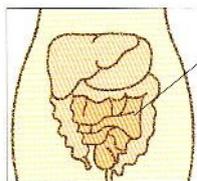
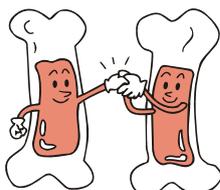
### ● 副作用が出現する理由

抗がん剤は、急速に増殖する細胞により強い傷害を与えます。そのため、活発に増殖している正常細胞も傷害を受けやすく、副作用が起こりやすくなります。一般的に副作用が起こりやすいのは次の部分です。

・骨髄

・消化管、粘膜

・毛、皮膚



### ● 副作用の発現時期

抗がん剤の副作用は、治療を開始してすぐに現れるものと、しばらくしてから現れるものがあります。主な副作用の現れる時期の目安を示しますので、参考にしてください。

#### 抗がん剤投与開始

○ 点滴中

アレルギー（発汗、顔面紅潮、動悸、呼吸苦など）・血管痛

○ 24 時間以内

吐き気・発疹・発熱

○ 1 日後から 1 週間くらい

食欲不振・体のだるさ・下痢・便秘・関節、筋肉の痛み

○ 1 週間から 2 週間

白血球減少・口内炎

○ 2 週間以降

脱毛・手足のしびれ・皮膚、爪の変色・貧血



これらの副作用には個人差があります。患者さんによっては出るものもあれば出ないものもあります。これらの副作用が出たとしても、早い段階で対応すれば、心配要りません。最近では、これらの副作用の多くを薬で抑えることができるようになりました。また、抗がん剤の種類や量を変えることにより、副作用が軽くなることがあります。おかしいと感じたら、決して無理をせずに相談してください。

副作用の多くは、治療が終われば回復します。治療中は辛いかもしれませんが、力を合わせて頑張りましょう。



## 日常生活について

お体の具合が良くないときは、無理をしないほうがよいのですが、特の症状のない時は、普段の生活を今までどおりにして下さって結構です。

### ● 食事

抗がん剤治療を受けていると、吐き気がしたり、食欲のわかないときがあります。また、食べ物の味がわからなくなることもあります。こんなときは、あまり気にしすぎないで、無理せずに食べたいものを適度に食べましょう。



### ● 活動

適度な運動は気分転換にもなりますし、お散歩や軽い運動はむしろ、積極的に行なったほうがよいでしょう。ただ、抗がん剤治療により皮膚が過敏になることがあるので外出時には長袖の衣服や帽子をかぶって直射日光を避けるようにしましょう。抗がん剤によっては、アルコールを含む場合もありますので、点滴後すぐの車の運転などは避けましょう。



### ● 入浴

お風呂は自由に入っていていただいて結構です。ただし、長湯や熱いお風呂は体力を消耗することもありますので、避けるようにしましょう。また、温泉のお湯を飲むことは、感染の可能性がありますので避けましょう。



### ● その他

体が思うように動かない、精神的につらいというときは、お休みするのが一番です。お仕事や用事は少し先延ばしにして、体にもこころにもお休みをあげて、のんびりしましょう。あれこれ考えて不安がいっぱいの時は、医師や看護師とお話することを勧めます。不安を口に出して話をするすることで、気持ちが軽くなったり、落ち着いたりすることも多いのです。



## 外来時の適切な受診行動がとれるように



退院後や、外来で化学療法を受けている時の、副作用の対処法です。

副作用出現の時期 (目安)	副作用	対策	受診が必要な時
当日から 1 週間	吐き気	・吐き気止めの薬を早めに服用 ・嘔吐があったときは無理に食 べずに水分補給	・嘔吐が続き、1 日 中何も食べられな かったとき
翌日から 1 週間	下痢	・水分補給 ・止痢剤の服薬	・1 日 5 回以上のひ どい下痢
翌日から 1 週間	体のだ るさ	・十分な休息 ・リラクゼーションや自分の好 きなことをして気を紛らす	・1 日の半分以上横 になっている ・必要な活動ができ ないとき
5 日から 2 週間	口内炎	・刺激物や極端に熱いものや冷 たいものを避ける ・水分を多く含んだ食べ物を食 べる	・口内炎の痛みが強 く食事が摂れない とき
1 週間から 2 週間	白血球 減少	・十分な安静と睡眠 ・水分補給	・38℃以上の発熱 ・感染の徴候
2 週間から 3 週間	出血	・ケガや傷に注意しましょう ・歯磨きや鼻をかむときはやさ しくする	・出血が止まらない ・血尿(尿が赤い)

上記の時は、診察予定日以外でも病院に受診してください

平日 (8:30~17:00)、土曜日 (8:30~12:00) → 各科外来に受診  
それ以外の時間・日祝日 → 救急に繋いでもらい、当直医に連絡してください



電話番号 大阪警察病院代表

06-6771-6051